

令和5年度

海南省地域防災活動支援事業 実績報告書

(加茂・仁義地区)



海南省

CONTENTS

概要

1	事業の趣旨	1
2	地域の概要（特性・課題）	1
3	事業の目的	2
4	事業の実施体制	2

事前学習会

1	概要	3
2	実施風景	3
2.1	グループワーク① 段ボールベッドの組み立て体験	3
2.2	グループワーク② 地域の資源について話し合う	4
2.3	グループワーク③ 地域のリスクについて話し合う	4
2.4	グループワーク④ 情報の入手方法やできることを話し合う	5

土砂災害啓発研修会

1	概要	6
2	実施風景	7
2.1	講座「土砂災害から命を守るために」	7
2.2	講座「災害時の情報の入手方法と日頃からの備え」	7
2.3	グループワーク① 段ボールベッドの組み立て体験	8
2.4	グループワーク② 地域の資源について話し合う	9
2.5	グループワーク③ 地域のリスクについて話し合う	10
2.6	グループワーク④ 情報の入手方法やできることを話し合う	11
3	発表	12
4	グラフィックレコーディングによる「対話の見える化」	12
5	感想の発表	13
6	ワークショップチラシ	14

アンケート

1	アンケート結果（一般参加者）	15
2	アンケート結果（中学生）	17

	インタビュー	18
--	--------	----

概要

1. 事業の趣旨

人口減少や高齢化、地域の担い手不足が進む中、甚大な被害が想定される南海トラフ地震や豪雨災害等の大規模災害に備え、紀伊半島大水害や東日本大震災等の過去の大規模災害の被災者や支援者から直接話を聞き、その知見や教訓を本市の地域住民、学生、支援者が「対話」で紡ぎ、新たな連携・協働を創出するための研修会等を実施する。

2. 地域の概要（特性・課題）

本市は、東西方向に長峰山脈がのびており、東部地域及び南部地域では山間部が多く、大雨や台風時には、過去に土砂災害による被害が発生している。特に山裾や斜面上に宅地や農地が形成されているところでは、土砂災害が発生すると被害が拡大する恐れがある。

今回、「豪雨災害を想定した取組」を実施する「加茂地区」「仁義地区」は、山を開墾して造られたみかん畑やビワ畑の段々畑のふもとに集落が多く点在し、また加茂谷に流れる加茂川周辺には宅地や小・中学校があり、土砂災害や河川氾濫における人的被害、住家被害、孤立化なども懸念されている。

同地区の高齢化率は、令和4年12月末現在45.7%で、本市全体の37.3%よりも8.4%高く、少子高齢化が進んでいる地域である。高齢者等の要配慮者の避難においては、地域の連携による迅速かつ適切な避難行動が求められており、住民の防災意識の向上や担い手の育成、連携強化など、多様な視点から地域防災力の強化が求められている。

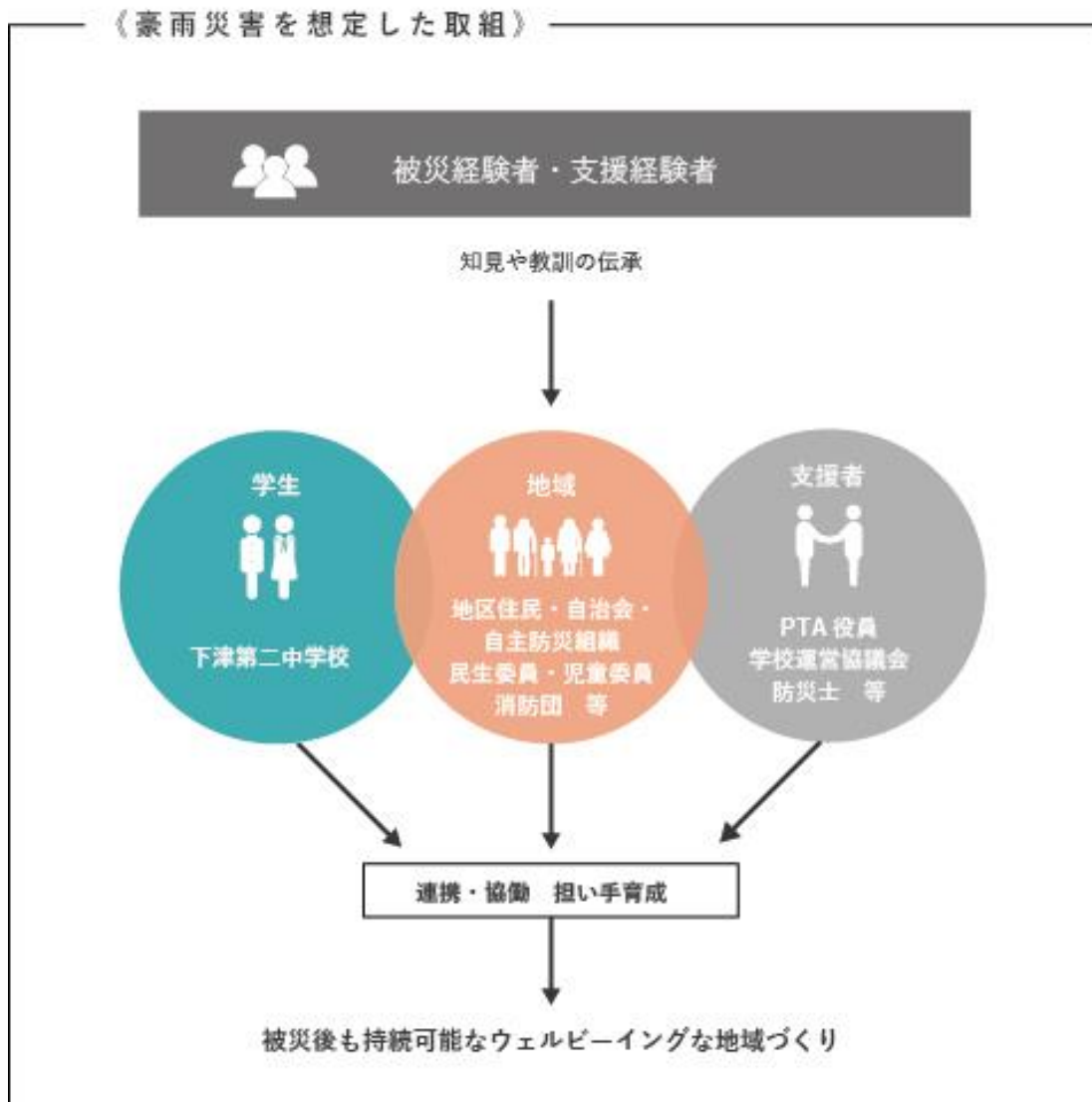


3. 事業の目的

世代や立場を超えて、それぞれの視点を持ち寄り、研修会を通じて、一緒に「より良い被災者支援」を考えることで、被災後も持続可能なウェルビーイングな地域づくりを目指し、将来に向けた地域連携の促進や新たな担い手の育成、地域防災力の強化を図ることを目的とする。

4. 事業の実施体制

教育・啓発、訓練により、関係者を対話で紡ぐ取組



事前学習会（下津第二中学校）

1. 概要

5月30日の土砂災害啓発研修会に参加する3年生を対象に事前研修会を実施した。

日時：令和5年5月24日（水）13：25～

場所：下津第二中学校体育館

参加者：下津第二中学校 3年生 41人

内容：グループワーク

- ①段ボールベッドの組み立て体験
- ②地域の資源について話し合う
- ③地域のリスクについて話し合う
- ④情報の入手方法やできることを話し合う



2. 実施風景

2.1 グループワーク① 段ボールベッドの組み立て体験

各グループに分かれ、避難所で使用する段ボールベッドの組み立て体験を実施した。



▶協力して段ボールベッドを組み立てる様子。

2.2 グループワーク② 地域の資源について話し合う

地域の豊かな部分、大切なもの、次世代に残したいもの等について意見を出し合った。



▶地域の自慢できるものを付箋に書き、地図を見ながら該当する場所に貼る様子。

2.3 グループワーク③ 地域のリスクについて話し合う

地域の危険個所について意見を出し合った。



▶ハザードマップ入りの地図を見ながら、普段生活していて危険を感じる場所に付箋を貼る様子。

2.4 グループワーク④ 情報の入手方法やできることを話し合う

警戒レベルごとに、どのような情報の入手方法があるのか、また自分たちに何ができるか意見を出し合った。



土砂災害啓発研修会

地域×防災ワークショップ ― 中学生と地域住民でくらしをみつめる ―

1. 概要

日時：令和5年5月30日（火）13：30～15：30

場所：下津第二中学校体育館

参加者：下津第二中学校 1年生 31人(第1部のみ)

2年生 34人(第1部のみ)

3年生 43人

自治会関係者 17人

民生委員・児童委員 7人

消防団関係者 11人

防災士 3人

大学生 1人

学校運営協議会 10人

ファシリテーター 10人

スタッフ・見学 26人

合計193人（うちグループワーク参加者128人）

内容：第1部 講座「土砂災害の基本知識や災害時の情報発信について」

第2部 グループワーク

- ① 段ボールベッドの組み立て体験
- ② 地域の資源について話し合う
- ③ 地域のリスクについて話し合う
- ④ 情報の入手方法やできることを話し合う

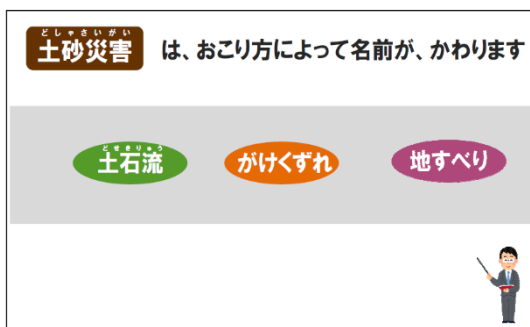


▶油谷校長先生の挨拶

2. 実施風景

2.1 講座「土砂災害から命を守るために」

和歌山県土砂災害啓発センターより、土砂災害についての基本知識や、映像を交えながら過去の被害状況について説明した。



2.2 講座「災害時の情報の入手方法と日頃からの備え」

海南市危機管理課より、災害時に発信される情報の種類や入手方法、日頃から取り組んで欲しい災害への備えについて説明した。

情報が自動で入るプッシュ型

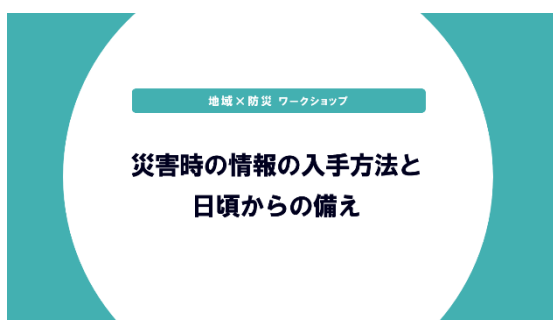
- 海南市メール配信サービス(事前登録)
- 海南市 LINE公式アカウント(事前登録)
- エリアメール・緊急速報メール
- 防災行政無線



日頃からの備え

1 | ハザードマップを確認する

災害が発生したときの被害の範囲を予想し、地図上に表示したものが「ハザードマップ」。自宅は何らかの危険区域になっていないか、避難ルートは安全か、などを確認する。



2.3 グループワーク① 段ボールベッドの組み立て体験

10グループに分かれ、地域関係者と中学生が連携し、段ボールベッドを組み立てた。



2.4 グループワーク② 地域の資源について話し合う

地域の豊かな部分、大切なもの、次世代に残したいもの、美しい景色等について地域関係者、中学生がそれぞれの視点から意見を出し合った。



<グループワークで出された主な意見>

- ・ 蔵出しみかんや仁義のビワが有名
- ・ 自然が豊かである
- ・ 泣き相撲等の伝統行事が地域に残っている
- ・ 国宝善福院がある
- ・ ご近所同士仲よし
- ・ お菓子の神様を祀る橘本神社がある



▶ 山路王子神社 泣き相撲の様子

2.5 グループワーク③ 地域のリスクについて話し合う

地域の危険箇所について、地域関係者、中学生がそれぞれの視点から意見を出し合った。

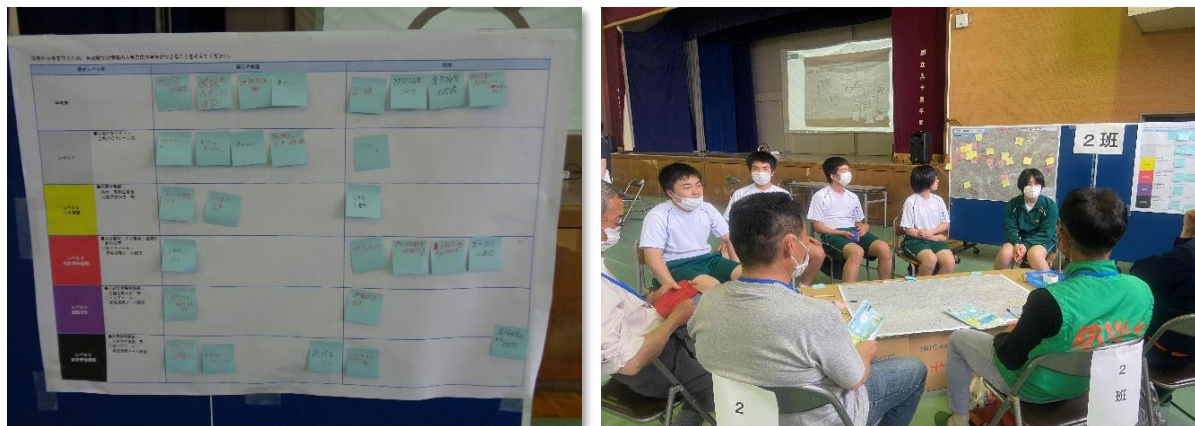


<グループワークで出された主な意見>

- ・ 道が狭い
- ・ 地すべりや土石流が過去にあった
- ・ 洪水による浸水被害が心配
- ・ 鳥獣害による被害がある

2.6 グループワーク④ 情報の入手方法やできることを話し合う

各警戒レベルの段階で、どのような情報の入手方法があるのか、また自分たちに何ができるか地域関係者、中学生がそれぞれの視点から意見を出し合った。



<グループワークで出された主な意見>

災害から身を守るため、各段階での情報の入手方法や自分ができることを考えてください。

警戒レベル等	個人や家庭	地域
平常時	<ul style="list-style-type: none"> ●非常持出品の準備 ●避難経路、避難場所の確認 ●家族で避難について話し合っておく ●ハザードマップの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●訓練への参加 ●自主防災組織の結成 ●近所で体が不自由な人の把握
レベル1	<ul style="list-style-type: none"> ●大雨になりそう・台風が近づいている ●天気予報を見る ●食料や水を準備 ●携帯電話の充電 	<ul style="list-style-type: none"> ●テレビ・ラジオ・インターネットで情報を得て共有する
レベル2 自主避難	<ul style="list-style-type: none"> ●大雨注意報・洪水・高潮注意報 氾濫注意水位 等 ●テレビ・ラジオで情報を得る ●家の周りを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●連絡を取り合う ●消防団の出勤
レベル3 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ●大雨警報・洪水警報・避難判断水位等 ○エリアメール・緊急速報メール配信 ●祖父母への連絡 ●浸水に備え2階にものを移動させておく 	<ul style="list-style-type: none"> ●お互いに避難場所を共有し合う ●要支援者への呼びかけ
レベル4 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ●土砂災害警戒情報・氾濫危険水位 等 ○エリアメール・緊急速報メール配信 ●家族で連絡を取り合い、避難場所を把握する ●周りの状況を確認し、避難する 	<ul style="list-style-type: none"> ●近所同士協力して避難する ●避難の呼びかけ
レベル5 緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ●大雨特別警報・氾濫発生情報 等 ○エリアメール・緊急速報メール配信 ●安全な場所に逃げる 	<ul style="list-style-type: none"> ●テレビ・ラジオで情報を得る

3. 発表

中学生が発表者となり、各グループで話し合った内容を他のグループと共有した。



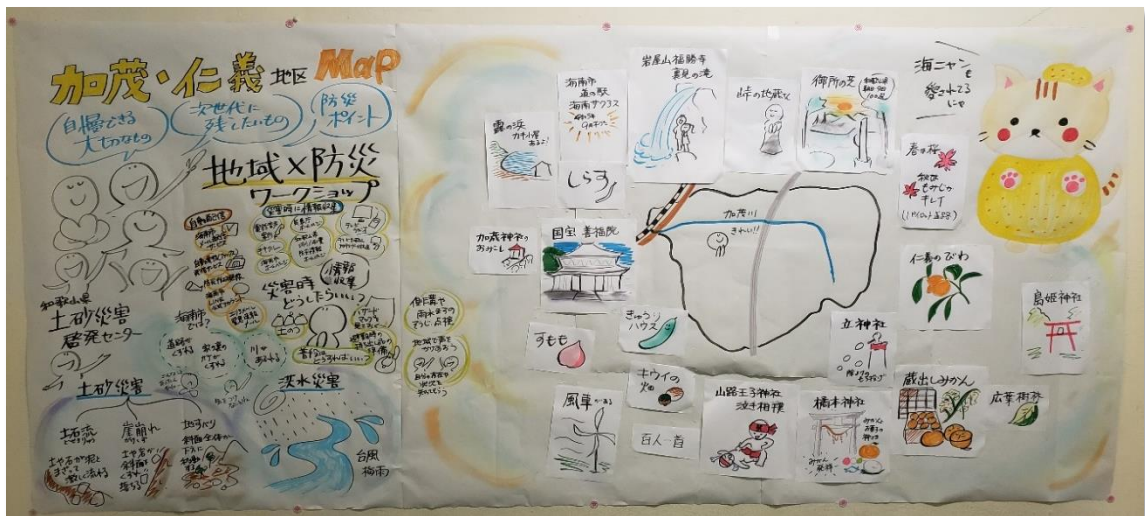
▶中学生の発表を地域関係者が聞く様子

4. グラフィックレコーディングによる「対話の見える化」

今回の研修では、「対話の見える化」を図るため、グラフィッカーの奥野美里氏にご協力いただき、グラフィックレコーディングを取り入れた。

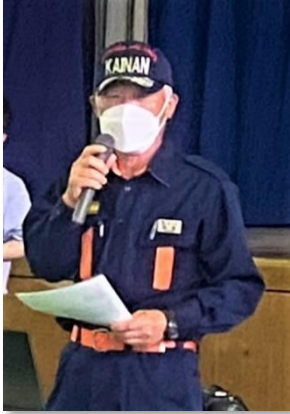
＜グラフィックファシリテーションとは＞

グループワークなどで話される内容を、絵や線、色を使って同時進行で「見える化」する手法。



5. 感想発表

岡室消防団長



- ▶ 地域の大人と子どもたちが共に災害や防災について学ぶことは、地域の防災力向上のために、非常に良い機会になったと思います。
- 消防団としても、住民の皆様をはじめ、自主防災組織や行政などと連携し、一体となって地域の防災に取り組んでまいります。

中学生代表



- ▶ 地域の皆さんと一緒に防災について学ぶ貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- 災害発生時には、今日学んだことを活かし、命を守る行動を心がけていきたいと思います。

6. ワークショップチラシ

地域 × 防災 ワークショップ

—中学生と地域住民でくらしをみつめる—



令和5年 5月30日(火)
13:30 - 15:30 (13:00 受付開始)

場所：下津第二中学校
※駐車場は下津第二中学校運動場
をご利用ください。

第1部 講座

土砂災害の基本知識や災害時の情報発信について、和歌山県土砂災害啓発センターと市からお伝えします。

第2部 グループワーク

- 1.段ボールベットを組み立ててみよう
- 2.地域の自慢を共有しよう
- 3.地域のリスクを確認しよう
- 4.情報の入手方法・伝え方を学ぼう



参加者の皆さんへのお願い

グループワークでは、加茂・仁義地区の自慢で
きる大切なもの、次世代に残したいものにつ
いて話し合います。事前にお考えいただきますよ
うお願いします。
(例：御所の芝からの風景が絶景)

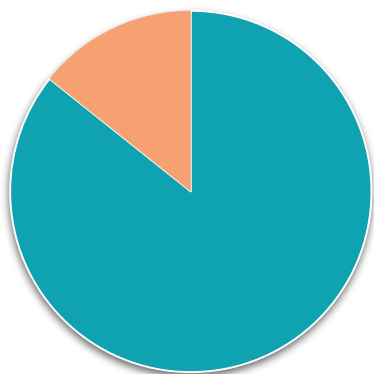
申し込み・問い合わせ先

海南市危機管理課
TEL:073-483-8406 (直通)
FAX:073-483-8483
mail:kikikanri@city.kainan.lg.jp

アンケート

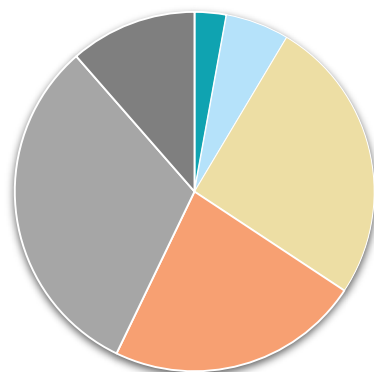
1. アンケート結果（一般参加者）

問1 性別



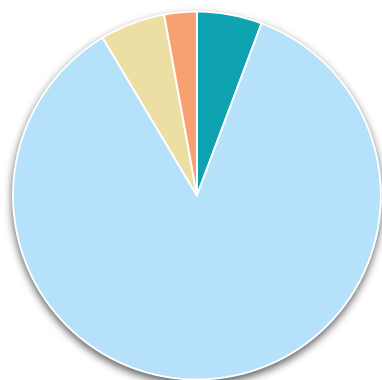
●ア.男	30
●イ.女	5

問2 年代



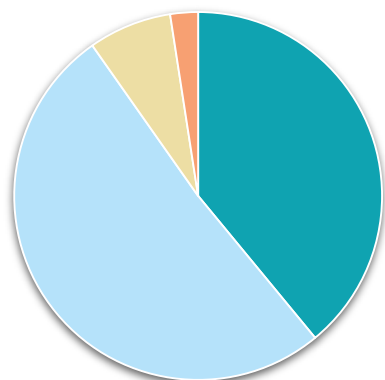
ア.10代	0
●イ.20代	1
●ウ.30代	2
●エ.40代	9
●オ.50代	8
●カ.60代	11
●キ.70代以上	4

問3 グループワークの時間は適切でしたか。(1つ選択)



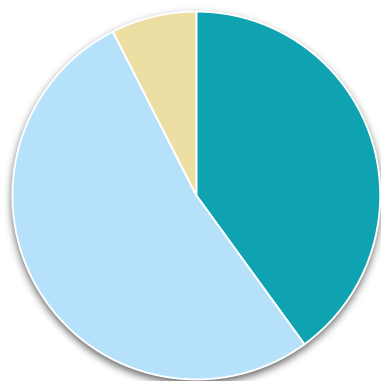
ア.短い	0
●イ.やや短い	2
●ウ.ちょうどよい	30
●エ.やや長い	2
オ.長い	0
●カ.未回答	1

問4 今回のグループワークでは、加茂・仁義地区の魅力やリスクについて話し合いました。参加する前と比較し、地域に対する印象に変化はありましたか。(複数回答可)



●ア.新たな魅力の発見につながた	16
●イ.今まで気づいていなかったリスクを知ることができた	21
●ウ.特に変化はなかった	3
●エ.その他	1

問5 中学生とのグループワークについての感想を教えてください。(1つ選択)



●ア.大変満足	19
●イ.まあ満足	15
●ウ.やや不満	0
●エ.大変不満	0
●オ.未回答	1

<コメント>

- ・大人の視点では、わからない点を見つけられた。
- ・自分が感じなかったことを中学生の皆様に教えてもらえてよかった。
- ・子供ならではの考えと共に、しっかりした意見を数多くきくことができ勉強になった。
- ・皆さんしっかりとした考えをもっていて私たちとのコミュニケーションも上手にとれていて防災についてゆっくり学ばせてもらった。
- ・中学生の考え意見が聞けてよかった。
- ・一つの機会として交流が少しでも出来たと思う。

2. アンケート結果（中学生）

問1 あなたは、防災について、家族で話し合ったことはありますか。
（あてはまるものに○）

1.家族で集合する場所や連絡先の確認	21
2.飲料水や食料などの非常持出品の準備	10
3.避難場所の確認	25
4.避難場所までの避難経路の確認	12
5.崖崩れや川の氾濫などが起こるような危険な場所の確認	5
6.家の近所で行われる防災訓練への参加	5
7.学校で行われる防災訓練や防災学習の内容	8
8.特に話し合ったことはない	10

問2 あなたは災害時にどのようなことができますか。（あてはまるものに○）

1.学校の生徒同士で助け合いをする	31
2.災害発生時に自宅の近所や学校周りの見回りをする	11
3.災害発生後ある程度落ち着いた時に、避難所などでできることをする	17
4.災害発生時も発生後も、積極的に地域の人のお手伝いをする	7
5.災害発生時には、校区外でも手助けをする	4
6.わからない	3

5. インタビュー

下津第二中学校

土砂災害啓発研修会の3日後の6月2日、梅雨前線及び台風第2号による大雨により、海南市では土砂災害や住宅への浸水など多くの被害が発生しました。

当時31か所の緊急避難場所を開設し、最大173人が避難された中で、下津第二中学校の3人の生徒がお手伝いをされました。2年生の北尾咲良さんと北澤ひまわりさん、1年生の森下杏美さんに当時のことについてお話をお伺いしましたのでご紹介します。



Q：当時の様子について教えてください。

A：当時、緊急避難場所には、地域の高齢者の皆さんがおられました。

「いつまで雨が降り続くのか」、「加茂川の水位は大丈夫なのか」という声があり、皆さんとても不安な様子でした。

Q：どんなお手伝いをしましたか。またそれはどういった思いからですか。

A：玄関に泥水が入っていたので、ほうきを使って泥出しをしました。

大変な状況の中、自分たちも逃げさせてもらっている立場で、皆さんのために何かできることをという思いがありました。

Q：お手伝いをする中で、印象に残っていることはありますか。

A：避難者の皆さんから「ありがとう」という感謝の言葉を掛けていただいたことが、とても嬉しかったです。

Q：5月30日に土砂災害の研修会を受けて、3日後に大きな災害が起こりました。研修会を受けて防災について何か考えましたか。

A：研修会で地すべりの映像を見たとき、すごく怖かったです。自分たちが住む家の近くには山や川があり、そうした自然が豊かなところは大好きな部分でもありますが、一方で土砂災害の危険性もあり、それに備えることが大切だと勉強になりました。

令和5年度 海南市地域防災活動支援事業 実績報告書

(加茂地区、仁義地区)

海南市 総務部 危機管理課

〒642-8501 和歌山県海南市南赤坂11番地

電話：073-483-8406 ファックス：073-483-8483

メール：kikikanri@city.kainan.lg.jp